

地区内外の自然保護団体と連携した 環境保全活動

兵庫県： 両来住郷協議会
りようきしごうきょうぎかい

○団体の目的と経緯は？

【目的】

子供たちに豊かな自然を残し、自然と関わり心を豊かにすること。そして、自然環境・生きものの保全を通して、地域住民の暮らしの充実を目指すこと。

【経緯】

当会は、自然環境及び希少種や絶滅危惧種を保全するため、きすみの農地水環境保全隊と共にビオトープなどの保全や観察会を、平成 10 年度から実行している。平成 27 年度からは、きすみの自然保護レンジャーが、その活動にも連携・支援団体として加わり、連携した保全活動を実施している。



ビオトープ観察会

○環境保全施設と関連情報

【環境保全施設】ビオトープ、ため池、農地、用水路など

【活用した事業等】きすみのビオトープ水路設置事業

【保全対象生物】ヒメタイコウチ、二枚貝（マツカサガイ等）、アブラボテ、カスミサンショウウオ、蝶類（ギフチョウ等）、植物

○どんな生態系保全の取組を実施？

1. 調査活動

①ビオトープ観察会、地区内の希少種等の調査

- ・ビオトープで生きもの調査、地区全域の貴重な動植物（絶滅危惧種・希少種）の調査を実施。
- ・貴重な景観、貴重な地質地形などを実施

2. 自然保護・保全活動

①ビオトープの保全活動

- ・草刈作業、畦焼き作業、堆積土砂の除去工事、ユウスゲの緊急採取と移植、ツルヨシ除去など

②小学校との活動

- ・小学校と合同でギフチョウの保護活動を実施

3. 他団体と連携した情報発信活動

①ブログを開設、冊子の発行

- ・保全活動の様子をブログで公開
- ・「きすみの自然遺産」（レッドデータブック）の選定・冊子の発行など



水路の維持管理



ビオトープ魚類調査



ビオトープの維持管理

○継続した活動でこんな効果が！！

■希少種・絶滅危惧種が発見

・活動によって、多数の希少種・絶滅危惧種が発見され、改めてこの地域の貴重な自然環境がクローズアップされた。

■地域住民の活動理解

・地域自治会連合や農地水保全隊の広報誌などによって、地域の貴重な自然環境を紹介し、地域住民の認識が深まっている。

○課題・苦労した点

■保全活動の知識やノウハウの不足

・保全活動や人員確保等のノウハウ、専門的な知識の不足が課題であった。

■時間・労役等の不足

・ビオトープの保全では、重労働となることもあり、人と時間が不足。

■会員の負担増加

・新たな活動展開によって会員の負担が増えてしまうことで、活動の継続が難しくなる。

○工夫した点

■他団体との情報交換

・近隣都市の自然保護団体等と情報交換会開催し、より活動内容の向上を図る組織を結成した。

■労役の負担軽減のために保全施設の維持管理に重機を投入

・ビオトープの保全では、予算を使用して重機を使うことで労役を軽減した。

■適材適所の作業分担

・適材適所で作業の役割分担をすることで、会全体の負担軽減に寄与している。

○活動の特徴！！

■地区内外の自然保護団体との連携

・きすみの農地水環境保全隊と連携した保全や観察会、きすみの自然保護レンジャーと連携した広報活動、近隣の自然保護団体との情報交換など、連携によって活動内容の向上を図り、活動の継続性を高めている。



○団体の概要は？

- ・平成10年度に設立され、活動エリアは兵庫県小野市来住町である。
- ・任意団体であり、人数は約30名。
- ・年間運営費は、補助金が100%となっている。
- ・年間活動日数は、約60日である。

